

県下初の心房細動の新しい治療法「パルスフィールドアブレーション」を開始しました

パルスフィールドアブレーションは既存のカテーテルアブレーションにおける合併症リスクの低減が期待できる新しい心房細動の治療です。

長野中央病院では12/11に長野県内第一例目の手術としてパルスフィールドアブレーションを施行しました。今後ともより安全で患者さんの負担の少ない治療を提供してまいります。

心房細動は心臓を拍動させるための電気信号の通り道に異常が生じることで脈が不規則になる不整脈の一種です。

主な症状としては動悸や脈の途切れ、意識消失発作などがあります。心房細動だけで致命的になることは少ないですが、心房細動が原因で脳梗塞や心不全を引き起こす可能性があり、早期に適切な治療を受けることが重要です。

心房細動の治療には薬物療法とカテーテルアブレーションがあります。カテーテルアブレーションでは、足の付け根の血管からカテーテルと呼ばれる細い管を心臓に入れ進め、異常が生じている部位を焼灼します。既存の焼灼方法は主に高周波電流を用いて焼く方法と風船を患部に押し当てて冷気で焼灼する方法で行っていました。いずれも組織内を伝わる熱的な作用で焼灼をするため心臓組織の変性のみならず、その周囲にある食道や横隔神経、肺静脈などを損傷してしまう合併症リスクが課題とされてきました。

既存のカテーテルアブレーションが熱の力で焼灼するのに対してパルスフィールドアブレーションではパルス状の電圧をかけることで形成される電場（パルスフィールド）により心筋組織のみ細胞死を引き起こすため周辺組織に関する合併症の発生リスクを低減することが期待されています。

長野医療生活協同組合 長野中央病院

長野市西鶴賀町1570番地

TEL : 026-234-3211

<http://www.nagano-chuo-hospital.jp/>

お問合せ：広報担当 蟹澤